

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101048		
法人名	社会福祉法人 熊本厚生事業福祉会		
事業所名	グループホーム 第二ほたる家		
所在地	熊本市西区河内町船津946		
自己評価作成日	平成28年9月21日	評価結果市町村受理日	平成29年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205		
訪問調査日	平成28年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム第二ほたる家は、海や山、雄大な自然の中で四季を感じながら落ち着いて笑顔で暮らせる環境です。また公民館、病院、コンビニ等が近くにあり、暮らしやすい環境にもあります。スタッフは日々の研磨を惜まず、常に介護の質の向上に努めています。毎日の日課には家庭と同じように掃除、洗濯干し、食事作り、買い物、洗濯たたみなどを実施しています。余暇活動としては書道、音楽活動、作業活動などを行い、同法人内のグループホームと共同で、運動会、音楽祭、収穫祭、お花見などの活動を行なっています。また、昨年より認知症カフェを開設し、月に1回ご利用者や地域、ご家族の方に声を掛けゆっくりとした時間を過ごしています。健康面に関しては、個別のリハビリ、口腔衛生に努め、食事面に関しては管理栄養士の指導の元、バランスのとれた食事を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共用のフロアの窓から眺める景色で、季節の移り変わりを感じることが出来る環境です。地域の方々とは日常的な交流のほか、災害時の連携にも取り組まれています。利用者家族・職員一緒にの食事が行われており、利用の満足度調査も実施され、家族の思いや意見を積極的に取り入れようと努力されています。利用者に対しての言葉使いや声かけについて定期的なラウンド(内部監査)を通して法人全体で取り組んでいます。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「利用者も職員も誇れる施設を目指します」 職員は毎週月曜日に理念の唱和を行ない、地域や家族には運営推進会議にて発信を行なっている。	名札、引継ぎミーティングでの唱和、全職員会議での説明と質疑応答、運営推進会議での発表等と機会を捉えて理解を深めています。職員の子弟が学校の職場体験で事業所を選ぶ等、職員満足と職員の誇りにつながっています。	実践から得た成果が職員さん一人ひとりに伝わることで、さらなる意識の向上が期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーへ週2回の食材の買い物に行っている。法人施設を利用し、認知症カフェを月に1回実施している。今年は地震の影響にて地域行事が行われていないが、例年行事に参加させて頂き、交流を深めている。	地域住民の方との交流も積極的に取り組まれ自治会や清掃活動へ参加されています。	限られた利用者の限られた交流に終わらない取り組みが期待されます。地域との交流の結果として、地域ボランティアでの参加があるといいですね。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度は地域の徘徊模擬訓練に参加。今年度は認知症サポーター養成講座を開催予定である。認知症に対する考え方、地域の方が行える取り組みなどを広報予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行事やインシデント・アクシデントレポートの報告、地域の方や家族との意見交換を行っている。意見は職員間で共有し、ミーティングで話し合いを行なっている。	運営推進会議での報告が事業所活動、認知症への理解につながっているようです。運営推進会議の参加者の意見が、地震や火災時の夜間時の対応等に活かされた例があります。	地域が活性化するような取り組みが生まれるといいですね。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは定期的に連絡を取り、情報の共有、また研修案内などを頂いている。熊本市へは事故の報告、介護支援相談員の訪問も定期的に行われている。	地域の頼れる事業所として、情報交換がなされているようです。	地域包括支援センターとの協力関係にとどまらず、市町村窓口へも事業所を知ってもらえるご案内を差し上げるのも一つの試みになるかもしれません。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	館内夜間以外は玄関を常に開錠し、身体拘束についても行われていない。法人内の身体拘束廃止委員としてスタッフも活動を行い、勉強会の開催や、身体拘束に関し周知徹底に努めている。	法人が主体となった内部監査が職員の意識の向上、スキルの向上、マナー防止、気づきの機会として成果を上げています。	実践状況の説明を通じて、利用者家族が認知症への理解を深める共に、事業所とのより強い信頼関係が築かれますことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員が主に虐待防止に関する勉強会をミーティングにて行っています。また、法人内の勉強会に積極的に参加し、虐待ゼロのホーム作りを行なっています。入居者の方への声かけ等も統一された敬語を使う様努力しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個別の学習と共に、法人内にて勉強会を行い、知識を高めている。また、ご家族の方にも制度の活用の提案を行なっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご家族に文言を分かりやすい様に説明し、ご納得頂いたうえサービスを提供している。契約以外にも普段の面会時や会議の機会に、ご家族から要望を伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方からは月に1回懇談会の場を設け、要望等を伺っている。ご家族の方からは運営推進会議や面会時に伺い、アンケートの実施も行っている。玄関には意見箱を設置し、様々な意見を運営に反映させている。	利用者家族へのアンケート調査が事業所の姿勢を表しています。必要と思われる利用者家族へはフィードバックされています。	アンケートの分析、改善の途中経過と結果が、職員・利用者・利用者家族一人ひとり全員に周知されることを期待します。合わせてより多くの意見や要望を出してもらえよう、質問話法も工夫が望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にスタッフミーティングを開催し、その際に出た意見を日常の業務に反映している。また、法人内に安全衛生委員会を設置しており、年2回ストレスアンケートを実施して職員の傾聴の場を設けている。	職員の意見と職場環境の改善に熱心に取り組まれています。日々の実践による現場での気づきやアイデア等によって、業務改善も行われています。	スタッフの意見に耳を傾けて活かしていくことは、働く意欲の向上や質の確保にもつながります。提案の内容によって職員が参画し、決定する合議の場が増えることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れており、就業態度や職能評価の測定、目標に対する評価を行い、年功序列ではなく努力や能力に応じて昇給や賞与に反映されている。法人内のグループセッションを活かし、研修参加等の環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育の年間計画を立てる際に、各々スキルに見合う業務分担、外部研修計画などを立て実施している。また、職能要件書を活用し、スキルの把握と必要な指導を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、情報交換を行ったり、他のグループホームの見学等も行っている。法人内の取り組みとして、同法人内のグループホームと2ヶ月に1回会議を行い、情報交換、合同での行事の企画、マニュアルの見直しなどを実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャーからの情報提供書をもとに、ご本人やご家族からの話を共有し、生活歴、既往歴等から今後の課題を見出す様にしている。入居後の2週間は特に密接に関わり、安心して生活して頂ける様に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず来所して頂き、環境面及び雰囲気を実際見て確認して頂いている。入居への経緯を把握し、お越しの際は日頃の様子等お伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネジャーと連携を図り、ホームへの入居が適切か話し合いの機会をもち、希望があれば短期入所サービスを勧めている。他のサービスが適切と判断される場合は可能な限りの情報提供を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活（掃除、洗濯、後片付け、調理、洗濯干し、洗濯たたみ、買い物など）見守りも行い、声掛け等にも配慮しながら職員も一緒に作業に参加させて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活必要物品不足時の買い物や、衣替え、病院受診、外出や外泊等の家族支援を継続いただき、本人と家族との関係が絶たれることがないよう支援している。家族へは必要な助言、相談を受けつけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の近くにドライブに出かけたり、地域の行事に参加するなどし、知り合いとのコミュニケーションの機会を作っている。面会も含め、外出・家族の方との食事会等を実施し、生活感が途切れないように支援している。	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、その関係継続へ取り組んでいます。事業所内で利用者同士の馴染みの関係作りも支援されています。また近くのファミレスへ利用者家族・職員も同行し、地域へ出かけていく機会を設けています。	事業所でのくらしがもたらす新たな馴染みの関係づくりが、さらに広がるといいですね。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の日頃の表情等含めた様子を常に確認し、ホーム内での席を常時検討している。関係が作られるまでは職員が間に入り、一人になられない様に声掛けを行って、共に出来る活動を提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご利用者の状態確認のため定期的に病院に伺ったり、ご家族や担当ケアマネジャーと連絡を取り経過を確認している。フォローにより再入居の申し込みも頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回の利用者の方と懇談会の場を設けて、要望をお聞きしたり、個別にも今後の意向等伺いニーズの把握に努めている。要望は可能な限り実現出来るように配慮している。	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情などから真意を推し量る努力がなされています。月に1回は意図的にひとり一人の思い・暮らし方の希望・意向を具体的に尋ねる機会を設けています。	介護担当職員さんの日々の気づきが、より活かされるような仕組みづくりが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーを考慮したうえで、ご本人に生活歴や生活環境をお聞きしている。ご家族にも支援いただき同様に以前の状況等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の活動を週間化した表を活用し、日々の生活状況を記録している。申し送りにて現状をスタッフ間で確認し合い、過介護にならないような支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はご家族、入居者の方のニーズを踏まえて作成している。3ヶ月毎のモニタリングを担当職員が行い、ミーティングの場で職員が出した意見、結果をプランに反映させている。また、ご家族、入居者の意見等に変わりが無いヒアリングも行っている。	本人家族からの要望なども記録され、認定期間ごとに見直しをする一連の流れはできています。	介護計画に沿っての実践と結果の日常的な記録をもとに、利用者・利用者家族・職員・必要な関係者との共有の場づくりへのさらなる取り組みが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の週間表に活動内容を記録し、ケース記録には活動の詳細や気づき、工夫したこと等を残している。記録は毎日読む習慣をつけ、課題については毎日の申し送り時やミーティングの際に話し合い、実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院受診や外出支援はご家族に代わり行う等、ご家族の方が負担に感じられないようにホームで出来る事は対応を行なっている。リハビリに関して、法人内のPTを派遣してもらい、身体機能の評価を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	震災の影響で地域行事が中止となっている。再開されるならば行事や学校との交流等、図っていきたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や希望される受診先は入居時に確認をしている。ほとんどの方が往診の対応となっているが、他医療機関に受診希望される方は受診前後にご家族と連絡を取り、調整を行なっている。	近隣の協力病院より月1回の往診が行われています。受診の付き添いのほか、必要に応じて家族に同行し、日頃の様子や変化を伝える支援をしています。	協力医との連携について、方針に沿った事業所側からの積極的な働きかけを期待します。受診のしかたや受診結果の報告について、本人・家族等の納得が得られる情報の共有ができるといいですね。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内には1名の看護職員を配置。介護職員の気づきを必ず看護職員に報告し、看護職員が確認したうえで受診を行なっている。日常生活での様子や入浴時の皮膚状態、夜間の入眠状態等、細かい報告がされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず職員が付添い、サマリーを記入し情報交換を行なっている。入院中の状況確認や退院に向けてのリハビリ状況などの確認を行い、退院後に向けて支援を行なっている。協力病院とは定期的に相談するなど連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在まで、看取りの対象者はいないが、入居時には重度化した場合や、看取りに関する意向確認を行なっている。希望される内容を把握し、ホームで出来る限りの事は対応して行きたいと考えている。	重度化や終末期の対応について勉強会を実施されています。計画的に看取りへの対応を検討されています。	看取りについての職員の理解が深まるような取り組みと、利用者や家族のニーズをくみ取り応える体制を整えていかれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変に関しては法人内の研修会、ホーム内のミーティング時に勉強会を行い、訓練を実施している。異常を早期発見できるよう日頃より気をつけている。マニュアルの確認も定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域住民の方にも協力頂き、昼間・夜間想定訓練を毎月実施している。近くのコンビニ、公民館、消防団の方の協力も頂いている。	災害時には地域の協力体制以外に、法人の協力も得て他の事業所の職員の緊急招集等のマニュアルが作成されています。地域の方々の協力の役割については、利用者の誘導・見守りを依頼されています。	地域との協力体制や災害を想定した実践的な訓練を継続して実施されることを期待します。

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にご利用者1人ひとり尊重することを念頭に置き対応している。排泄、入浴などはプライバシーに十分に配慮し、希望があれば同性でのケアを行っている。基本的には敬語を用いコミュニケーションを図っている。	年長者として敬意を払い、ケアの中では特に言葉使いに気をつけています。利用者に対しては「様」を付けて声かけをすることで、その後の言葉遣いや動作を意識し丁寧な対応を心掛けています。	職員が利用者一人ひとりの人格を把握し、尊重する手立てを自ら工夫できるといいですね。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思をはっきり言われる方もいらっしゃいますが、遠慮されている方も中にはおられる。様子から気付けるよう密にコミュニケーションを図り、自己決定ができる様に選択肢を増やしたり、傾聴する等、工夫を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはある程度は決まっているが、朝の挨拶時に入居者の希望を聞いたりし、おやつ作りや外出を取り入れる等、支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや入浴時に希望の服を選んで頂いている。外出時や催し時など行事の内容や気分に応じて化粧もして頂いている。散髪は希望に応じて家族に依頼するか、ホームで理容師に来て頂く調整を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、法人の管理栄養士が献立を作成している。旬の食材を活かして、ご利用者と相談しながら一部変更も行っている。食事の準備(野菜の皮むき、野菜の切り込み、お米とぎ)、食器の片づけなど個々の能力に合わせて一緒に行なっている。	利用者9名中4～5名の方が食事の準備などを職員とともにを行っています。食事前に運動と歌を合唱すること、BGM音楽からラジオ放送へ変える取組みが食事への誘導と集中を促していました。鍋やお好み焼きなど食事を楽しむ工夫も行われています。	食事の楽しみへ、一人ひとりの五感を刺激する手立ても工夫されてみてはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の確認、毎月体重測定を実施し、かかりつけ医に報告している。体重増減に応じて食事の量を調整し、人により食事形態を変え、必要に応じ栄養補助食品を提供している。水分摂取量の少ない方は飲水量のチェックも行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは起床時、毎食後、就寝時に個別に職員が付き添い実施。個別に専用のブラシ、歯間ブラシを使用している。義歯に関しては就寝時は洗浄を行なっている。噛み合わせや、飲み込みが悪い時など必要に応じて歯科医に相談し、訪問指導が行われている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間週間表に排泄状況を都度記録し、排泄パターンを把握しながら、トイレ誘導・パット交換を行っている。必要に応じてパット使用、可能な限り下着を使用できるように支援している。	入所後2週間の期間で排泄パターンを把握し、個別の排泄支援を行うことで利用者全員が布パンツへ移行されています。	利用者の羞恥心や不安への更なる配慮と、成功事例が数値化され、理念の実践、職員一人ひとりの達成感、新人研修と利用者家族への信頼感につながることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立は決まってはいるが、繊維物を多く取り入れたり、日中は個別にも運動を行っている。毎日行っている集団体操には排便を促す運動を取り入れている。排便困難者には下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がられる方もおられるが、声掛けを工夫し入浴できている。毎日入浴日として希望に応じて入浴できている。入浴中はマンツーマン対応の為、ゆっくりとコミュニケーションを取る事が出来ている。	仲の良い方度同士と一緒に入りたい場合やゆっくり浸かりたい人、一番風呂が嫌いな人など、利用者個々の希望や習慣に合わせた入浴の支援をされています。	本人のこれまでの生活習慣の合わせた入浴ができるよう夜間の入浴対応なども検討されることを期待します。お風呂場での会話から暮らし全体への要望、将来への期待が聴きとれるといいですね。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に合わせて就寝支援を行なっている。居室環境はお一人お一人違うので、ニーズに合わせた空間作りを行なっている。日中の休息も希望に沿って対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては用途、副作用、禁忌食などを理解したうえで支援を行っている。内服変更時は全員に周知し、1週間は記録に残している。誤薬が無いようにセット時はダブルチェックを行ない、与薬時は声出し確認を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	創作活動やカルチャー活動、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の下ごしらえなど役割が分担できている。飲食物はお菓子、コーヒーや紅茶等、意向に合わせて提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿ってできる範囲内で近隣への散歩や外出など行えている。今後予定されている農園活動の収穫祭ではご家族も一緒に参加頂けるよう計画している。法人内で行われた納涼祭や敬老会ではご家族の方に多数ご参加頂いた。	近隣のファミリーレストランへ職員と一緒に出かけたり、食材の買い出しのほか、自宅の庭の花を観に行かれたりなど、個別的な外出にも対応されています。	利用者一人ひとりの状態や習慣、有する能力、希望、そのときどきの状況に応じて外出を楽しめる支援に取り組まれることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度をお持ちの方はおられるが、本人が使用される事は殆どない。ホームの食材の買い出しの際に、職員付添いで買い物をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある際は、その都度対応している。職員が月に1回、生活の様子をお伝えするためにご家族へ手紙を郵送している。年賀状を入居者の方と一緒に書く予定としている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやラジオの音量は調整し、入居者に不快なよう気をつけている。日光は窓が北向きであるため、大きな影響はない。窓から見える木々の移り変わりを見る事ができ、良い刺激になっていると思われる。	窓からの景色が季節感を演出しています。利用者が個人の居室とリビングを行ったり来たりする様子が見られました。安心して集える場になっているようです。	生活の音の中にひとりになれるような空間があるといいですね。利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら、利用者にとって居心地のよい場を整えていかれることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに畳のスペースがあり、横になれたり、畳のスペースで音楽を聴かれたりしている。テーブル毎になじみの関係があり、ご利用者通しの会話は少ない場面では職員が間に入りコミュニケーションを図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や自宅で使われていたタンスを持ちこまれ、人により家族の写真をお部屋に飾られている。人形をわが子のように思われている方に対しては、専用の布団も用意し、一緒に生活をされている。	仏壇や馴染みの小物は持ち込まれています。クローゼットの中にしまわれており、シンプルな居室となっています。	利用者家族へ衣替えの案内をされることで、家族の支援が受けられる手立てになるかもしれません。カレンダーなども好みが変わるところです。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりも設置しており、教室や共同のトイレは車椅子でも十分な広さがある。各居室には表札があり、自分のお部屋だと分かる様になっている。自席に分かりやすいよう名前を貼っている。		